

話題の「はだしのゲン」

JJ1SXA/池

「はだしのゲン」を学校の図書館で自由に読めるようにすべきである、閲覧制限はおかしいとの論議が、新聞、TV を賑わしましたが、残念ながら、私はこの漫画を読んでいません、書評とかで、著者の被原爆体験を基に書かれた反戦漫画なんだと言った程度の認識でしたが、今度の件で、内容を少しは詳しく知りましたし、ユーチューブでいくつかの絵を見る機会を得ました、原爆の残酷な情景もさることながら、日本兵が首を切り落とす場面とか、銃剣で刺殺する場面とかは、本当に史実に基づく事実なのか？この漫画を子供たちに絶対読ませるべきだとの意見には疑問を感じます。

以下に、「hatnoir009」氏のブログに載った、「なぜ『はだしのゲン』なのか？」の一部を引用します。

以下引用

…連日、漫画『はだしのゲン』が話題となっているようですが、個人的には『はだしのゲン』ぐらいなら学校の図書館にあっても問題ないと思います。ただし内容的には疑問に感じる点も少なくありません。

…(中略)…

作者の中沢啓治氏は子供にトラウマを植え付け、原爆の恐ろしさを伝えたい、と発言したこともあるようですが、やはりそのようなやり方は教育としてはいかがなものかと思えます。

…(中略)…

特に方々で指摘されていますように、共産党系の雑誌に連載し始めた頃から話の内容が、露骨な政治批判やヒロポンの話など、本筋からどんどん逸れていきます。

…(中略)…

反戦漫画としてはそれなりに読み応えもあるのですが、全体としては果たしてどうかという内容です。同じ原爆でも、この史代氏の『夕風の街 桜の国』の方が遥かに出来が良いですし、平和教育であれば『火垂るの墓』などでも戦争の恐ろしさを十分に学ぶことができます。要は「なぜ『はだしのゲン』でないと駄目なのか」という点が曖昧なままなのです。

…(中略)…

現在の国際政治学という学問が100年以上かけて辿りついた結論は、「結局、国際関係を安定させるのは武力による抑止と勢力均衡である」(リベラル派はこれに「経済の相互依存の深化が戦争を遠ざける」と付け加えますが)という古典的なものです。

つまり平和を理解するためには戦争や軍事を学ばないと教条的な平和論から一歩も進めません。

日本が現在「平和」なのは、戦後の教育の賜物ではなく、在日米軍と自衛隊の存在であるということは言うまでもありません。

…(後略)…引用終わり

『日本が現在「平和」なのは、戦後の教育の賜物ではなく、在日米軍と自衛隊の存在であるということは言うまでもありません』の言葉に、強烈なメッセージを感じます、一部には、憲法9条があるからだ、妄信している人は多いようですが…

また、歴史教科書の問題でも論争があるようですが、歴史教育は、正しいことを教えてもらいたい、現場教師の偏向教育はあってはならないことですし(上部組織の指導があっても)、一部歴史学者の偏向主張は止めてもらいたい。

左翼(共産党系)のあるホームページに、次のような記述がありました。

…歴史わい曲・侵略戦争肯定・憲法敵視、アジアの人々との共生を否定し、国際社会での孤立化の道に踏み出す「不適切な教科書」を子どもたちに渡してはならない…

この内、「歴史わい曲、不適切な教科書を子どもたちに渡してはならない」、これだったら、全くその通りですが、「侵略戦争肯定・憲法敵視、アジアの人々との共生を否定し、国際社会での孤立化の道に踏み出す」の言葉は、そのまま同意できません、きれい事では済まない現実を見据えれば、一方的な意見に固執せず、真実を追究した事実で教育をしてもらいたい。

何故左翼系の人達は、必ずしも事実に基づかない意見に固執し、国益を損じかねない発言を繰り返すのだろうか？

「はだしのゲン」も、原爆の恐ろしさを伝えたいという熱い思いから、露骨な政治批判等、本筋からどんどん逸れていったのは、何故だろうか？

共産党系の雑誌に連載するようになったからか、それとも、著者に失礼かも知れませんが、原爆の恐ろしさを伝えたいという思いよりも、政治批判をするために被爆体験をダシに使ったのか？

故人となられた著者の真意は、おそらく永遠にわからないでしょう、原爆の恐ろしさを伝えたことは紛れも無い事実ですが…

私の結論は、「はだしのゲン」は閲覧制限をしなくても良いでしょうが、閲覧を強制したり、積極的に閲覧を薦めたりすることには、強い違和感を覚えます、むしろ閲覧制限をしたい人達の意見に共鳴を感じます。

(2,Sep,2013 記)